

# 県Pと校長会が合同研修会



## 働き方改革テーマに協議 親としての役割など考える

佐賀県小中学校校長会と佐賀県PTA連合会との合同研修会が9月13日、佐賀市の「グラント」はがくれで開かれました。両団体から合わせて約50人が出席し、「子供たちのための働き方改革」を有意義なものにするために、をメインテーマに、親としての役割や、PTAができることについて意見を交わしました。

開会式では、校長会の深草光明会長（兵庫小校長）が「PTAは学校に何かをしてくれるだけの組織ではない。研修を通してお互いが成長できるような学びがあらば」とあいさつ。県Pの馬場将嘉会長が「しっかり本音を出し合い、実りある会になれば」と期待しました。

基調講演では、佐賀女子高の校長などを歴任し、現在はNPO法人「桃李塾」の副塾長などを務める吉木知也氏が、「未来へ乾杯」子どもたちの幸せを願って〜の演題で講演。子育てにおけるコミュニケーションの大切さや、子供が夢を追い続けるために親が見守ることの重要性などを話しました。

基調講演後に続いて開いたグループ討議では、出席者が8グループに分かれ、「子供の親としての役割」「学校の応援団としてPTAができること」の2テーマについてそれぞれ意見交換しました。

1回目の「子供の親としての役割」をテーマ

### 講演要旨

演題 『未来へ乾杯』  
～子どもたちの幸せを願って～

講師 吉木知也氏



昨今、いじめや不登校・命にかかわる事について問題になっているが、それらはコミュニケーション不足によるものだという。ゲームやテレビや動画など多種多様ある中で、子守としてそればかりさせると相手の心が分からない子供になってしまう。色んな人と関わりを持つことで相手の心が分かる子供に育っていく。子育てとは目をかけ・声をかけ・手をかけ・心をかける事で成り立つ。子守と子育ては違うと認識してほしい。

本来、人間は面白く、素晴らしい生き物である。生きるとは実に楽しいと感じるために、夢を追い続ける子供になってほしい。努力で夢が叶う事を伝え、子供の夢を潰さず、否定しないように我が子をしっかり見守ることが大事である。

そして「根幹枝花」。花ばかり追いかけて、根の分かる子供、根になれる子供になるために、周りの大人もまた根の分かる、根になれる人でありたい。また、心豊かな子供になってほしい。数多くの心振るわせる感動体験を学校ではなく、家で体験してほしい。少なくとも親が自らの感動体験を子供に語ることが大切である。

最後に、コミュニケーションはとても大切なことである。意識の違い・知識の違い・常識の違いという三識の違いのズレを解消する方法で最も基礎的なものが何かと言ったら、コミュニケーションなのだ。（再録・嬉野真紀子）

とした討議では、「子供に対してひとりの人間として接する」「子供に家庭が自分の居場所だと思ってもらえるような親になる」「親自らの体験を学ばせる」「子供の前では先生の悪いところを言わない」などの意見が出されました。また2回目の「学校の応援団としてPTAができること」をテーマにした討議では、「避難訓練や食育を頑張ってみよう」といった意見が出たほか、「先生とのつながり、保護者同士のつながりを大切にしていきたい」との意見も出されました。

（瀬戸健太郎）

## 県Pと県校長会の合同研修会を終えて

今回は、「子供たちとの関わり」に関する昔と今について講演いただきました。近年、大人と子供との関わりが減っていると感じていましたが、講演を通じて、子供たちにとっての「声掛け」がいかに大切かを改めて思い知りました。

また、子供たちには多くの可能性があることから、夢や希望を持つことを否定せず、応援しながら見守ることの重要性についても学ぶことができました。夢に向かう過程で経験する「我慢すること」や「努力すること」が、子供たちにとって極めて大事であるということに深く共感しました。

確かに、子供が「〇〇になりたい」と夢を語ると大人たちは否定せずそれを受け入れますが、中高校生になって夢を語るとそれを否定してしまうことがあります。そのような時こそしっかり耳を傾け、夢を尊重してあげることが重要だと強く感じました。

今回の講演では、改めて子供の可能性を信じ、応援する大切さを学ぶことができました。また多くの感動を頂き、とても有意義な日となりました。

今回の研修会では、学校と家庭が協力して子どもたちの成長を支える上で、コミュニケーションの重要性を改めて実感しました。講師の吉木先生による力のこもった講演では、教師と保護者が互いに本音で話し合い、立場を尊重しながら共通の目標に向かって協力することが、学校運営や子どもたちの健全な成長に不可欠であるということ学びました。

また、研修後の意見交換会では、他校の校長先生やPTA役員の方々からも貴重な話を伺いました。例えば、ある学校では「親子でのワークショップ」を定期的に実施し、子どもたちと保護者が一緒に学びながら交流を深めることで、家庭内での学習意欲が向上したという事例が紹介されました。

今回の研修を通じて、学校・家庭・地域が一丸となって子どもたちを支援するためには、何よりも双方の対話が重要であると強く感じました。今後も、子どもたちの未来を切り開くために、互いに協力し合いながら目標を持って取り組んでいきたいと考えています。

子供の可能性信じ、応援を



県PTA連合会副会長  
池田 智博さん

本音の話し合いが不可欠



牛津小校長  
真子 真波さん

36年の信頼と実績

丸田塾maruta

13名全員が教職現場での経験豊富な正社員講師です

中学校別定期テスト対策

実施しています！

小2～高3

目標に応じた各コース

全教科指導

部活や習い事との両立もできます

英検・漢検・数検

の受験もできます

オンライン英会話

致遠館中 合格実績

2022年 20名

2023年 26名

2024年 28名

中学受験に実績あり！

お問い合わせは各教室まで！

◆兵庫本部教室 ◆佐賀駅前教室

◆城北教室 ◆大和教室

◆新栄教室 ◆鳥栖教室

◆小城三日月教室

丸田塾HP



# 探ろう PTA の存在意義

社会教育団体として学校や地域でさまざまな活動に取り組むPTAですが、加入を巡る議論が全国各地で繰り広げられています。PTAは任意加入が原則となっており、趣旨や活動内容に賛同できない人もいることから、会員数の減少が全国的な課題となっています。

その一方で、「子供たちのためになれば」と地道ながらも着実な活動を続けられている会員の方も多くいます。PTAとして子供たちのために、また地域のために何ができるのか。会員らの熱意ある活動を通して、PTAの存在意義を探ります。

## ●理解得られる組織体に

思斉館小PTA会長 野田 大介さん

今年度、思斉館小学部PTAは任意加入の原則を尊重し、保護者に加入の意思確認を取りました。その結果、加入率は55%。野田大介会長は「少ないな」と率直に述べ、高学年になるにつれて加入率が下がっている事について「コロナ禍に満足な活動ができなかったことで会員の皆さんにPTAの存在意義が薄れている」と指摘します。

現在、加入・非加入世帯が混在しているため、これまで全児童を対象に配布していたもの(卒業生へのコサージュや紅白餅など)は、廃止の方向で検討しています。「不公平感があるとはいけないのが悩みどころ」とし、学校と調整を重ねています。

野田会長は「PTAに加入しなくても子供に不利益はないという情報が増え、非加入を加速させている。任意加入なのに全員参加という『昭和的』なやり方に限界を感じている」として、これからの方向性については「安易な解散は考えていないが、令和という時代に合わせ、保護者の理解を得られる組織体に変革していきたい」と話しました。



(山田宏一郎)

## ●PTAの重要性が見直される時

古枝小PTA副会長 中村 一堯さん

「朝から元気にあいさつしてくれる子供たちからパワーをもらっています」。毎朝、古枝小学校の校門前に立って児童を見守る同校PTAの中村一堯副会長は笑顔を見せます。活動は子供の入学をきっかけに5年前から始めましたが、続けてこられた理由を「子供たちの元気な姿が見られる上、防犯にもなる」と話します。

中村さんには単P副会長のほかに鹿島市議としての顔もあり、鹿島市PTA連合会や市教委とも積極的に意見交換しています。各学校と市との懸け橋になることを目指しており、「子供たちが安心して学校生活を送れるよう、さまざまな事に取り組んでいます」と言います。

PTAが縮小し続けている現状を、中村さんは「地域と学校の連携が厳しくなり、社会に出てから必要な創造性や感受性を養う場が減ってしまう」と危惧しています。その上で、多様化が進む社会だからこそ、「PTAと学校が力を合わせていくことが重要」と訴えています。

(三原滋木)



## ●北茂安小らしさ、つなげたい

北茂安小PTA会長 宮原 卓也さん

北茂安小学校で料理教室を開催する同校PTAの宮原卓也会長。活動のきっかけは、(学校がある)みやき町内に肥満気味の児童が多いことに問題意識を持ったことで、「食事の大切さを知ってもらいたかった」と振り返ります。

料理教室で教えるのは手軽に作れる朝食で、宮原会長は「活動に教育的な要素を少し盛り込み、子供たちが楽しみながら何か一つでも学んで欲しい」という意図があるといいます。その上で子供たちが大人になり、次世代の活動を担うようになればと願っています。また料理教室の他にも、他校との交流イベントを開いたり、給食ができる課程を動画に収めて校内で放送したりと、多彩な活動に取り組んでいます。

活動を通じて「先生も子供たちもよくあいさつしてくれるようになった。学校の雰囲気が明るくなった」と言います。転勤や卒業により先生・児童が入れ替わっても「北茂安小らしさをつなげていきたい」と意欲を見せます。



(石井万里)

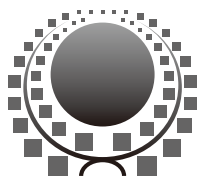
## 校長先生の話 関わるすべての人が幸せに

兵庫小校長 深草 光明さん

私は令和4～5年度に、県PTA連合会の副会長としての役を担いました。正直に言ってそれまではPTA活動に関して深い思い入れを持たず、学校に関わる一つの組織の中の活動として漫然と関わっていたと思います。(保護者の方に学校のいろいろな行事等に関わってもらい、お手伝いをしていただくことがありがたい…そのような程度です)

そのような中、PTAの事務局や各地区の理事の方々と関わる中で、PTAが本来果たすべき役割や自分が今まで知らずにいたことに、新たな気付きを与えてもらったことは大変勉強になりました。そもそもPTAは「社会教育団体である。」ということを初めて知ったときには、恥ずかしながら目から鱗が落ちる感じでした。社会教育法に規定される社会教育団体であるPTAは、子供を中心に据え、学校・家庭・地域が互いに学び合うことで教養を高め、結果的に子供の健全な育成に寄与するものなのです。

そう考えたとき、学校の力、家庭の力、地域の持つ力を合わせ、子供を真ん中に置きながらも我々大人も共に成長し、一人一人の多様な幸せ(Well-Being)の実現を目指すことは、本来のPTAが目指しているところではないかと思うのです。「子供たちのため」「学校のため」という単一的な考えでなく、PTA活動に関わる人たちすべてがwin-winの関係となるPTAであるべきだろうと考えます。そのような意識が広がれば、これから先のPTAの存在意義も見えてきそうです。



全国都道府県対抗  
eスポーツ選手権  
2024 SAGA

2024 12.14 SAT・15 SUN

SAGAアリーナ 佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10

入場無料

事前予約不要



イベント情報  
随時更新中!

当日観戦  
可能!

選手以外も楽しめる  
体験ブースも予定!

各地区予選を勝ち抜いてきた勇者たちの熱戦を間近に感じよう!  
小学生、中学生の選手も全国から出場

全国都道府県対抗eスポーツ選手権は、都道府県代表選手によって競われるeスポーツの全国大会です。各地区予選を勝ち抜いた選手らがそれぞれの種目で都道府県別で戦い、各種目の総合点数で総合順位を競います。

このイベントは「SAGA2024国スポ・全障スポ」文化プログラム事業および佐賀新聞創刊140周年記念事業の一環として行います。



主催: 全国都道府県対抗 eスポーツ選手権 2024 SAGA実行委員会  
(株式会社佐賀新聞社、一般社団法人日本eスポーツ連合、一般社団法人佐賀県eスポーツ協会、株式会社共同通信デジタル)  
協賛: 興和・Cygames 佐賀デバッグセンター/佐賀スタジオ・東馬・メガネのヨネザワ



### 川崎大会に参加して

## 大人が満たされ、子供笑顔に

会場となった川崎市の「とどろきアリーナ」に足を踏み入れた時、全国各地から来場されたPTA会員の皆さまの熱気に圧倒されました。中央の特設ステージを囲むような独特な座席の配置は、これから始まるイベントの期待感をより一層高めるのに十分な演出でした。

今大会のスローガンは「ウェルビーイングの実現を」です。一見、抽象的とも思われるこのフレーズは最近よく耳にしますが、説明できるかと問われれば、簡単ではありません。「ウェルビーイング」は心身ともに満たされた状態を表す概念であり、1日目に登壇された3人の有識者の講演を通じて、様々な角度から「ウェルビーイング」についての見識を深めました。さらには隣同士に座った初対面の参加者とのセッションを通じて多様な価値観を共有しました。

PTA活動は子供たちの笑顔を守るための活動であり、子供たちがいつも笑顔でいられるにはまず、私たち大人が心身ともに満たされた環境にあり、子供たちと笑顔で接していなければならないと学びました。



諸富中学校PTA  
井上 和洋さん



「誰か」誰か残さない、居場所を大切にすることが大切だ。参加者は一つの会場に集い、4人1組のグループをつくって、各セッションで活発に意見を交歓しました。

2日目には、EVO L株式会社CEOの前野マドリ氏による「ウェルビーイングを社会に広げることの大切さ」について記念講演が行われました。

(小寺毅)

### 学びをより良い活動に

川崎大会に参加し、全国のPTAの方々とは交流できたことは、大変貴重な経験となりました。特に「ウェルビーイング」をテーマにした講演は、子供たちの心の健康や保護者自身の生きがいについて深く考えさせられました。

従来のような分科会形式ではなく、全員が一堂に会して意見交換を行った点も印象的でした。他の地域で行われている活動や取り組みを知り、自身のPTA活動に生かしたい点もたくさん見つかりました。また、川崎市の「子どもの権利に関する条例」の紹介は、子供たちにとってより良い環境をつくるために、地域全体で取り組むことの大切さを改めて認識する機会となりました。今回の大会で得た学びを地域に持ち帰り、より良いPTA活動に繋げていきたいと考えています。



城西中学校PTA  
荒木 健さん

# ウェルビーイング実現へ 日P川崎大会に6000人

日本PTA全国研究大会川崎大会が8月23、24日の両日、神奈川県川崎市の「とどろきアリーナ」で開催されました。全国のPTA会員や教育関係者ら延べ6千人が参加し、互いにPTAの「縁」を感じながら、ウェルビーイングの実現を目指して学び、語り合いました。

## 日P川崎大会：大会宣言

### 【大会宣言(抜粋)】

本大会では、様々な分野に及んで大きく変化する様子とその本質とを学び、一人ひとりが、PTAの「縁」を感じながら、家庭・学校・地域のウェルビーイングの実現を目指していくことを、個人のアクション・プランに掲げました。

今、これらを実践して、よりよい子供たちの教育環境づくりと、一層活発なPTA活動とを全国的に推進していくことを宣言し、次の通り決議します。

### 【決議】

「社会の大きな変化を学び、進化を考えるPTA活動を推進します。

「自己肯定感を高め合い、活力あるPTA活動を推進します。

「誰も取り残さない、居場所を大切にするPTA活動を推進します。

## 市郡連会長に聞く

県内に13ある市・郡・地区PTAの会長を順番に紹介します。それぞれの地区の自慢や課題、今後の展望について語ってもらいます。

第23回 唐津地区 本吉 佳子 会長

もとよし・よしこ

唐津市出身。娘が小学校2年生のころからPTA活動に携わり、活動歴14年となる。もちろん県P新聞編集委員も経験済み。声を生かした司会やアナウンスが抜群に上手い。お勤めのデートスポットは呼子の加部島にあるKABESHIMA COFFEE STANDという。平成17年に唐津地区PTA連合会として編成後、8代目で初の女性会長。所属単Pは西唐津中。



## 繋がりや出会いを大切に

◆母、妻、職員、会長を両立するコツは何ですか？

主人をはじめ、家族の支えと協力、そして理解が、一番大きいと思います。職場の方も「今だからこそ携われること」と後押ししてくれたので、私は周りの方々に恵まれていると思います。また、事務局の信頼できる厚い支援にも大変感謝しています。

◆PTAの加入問題をもとに考えますか？

唐津地区での加入問題については、自然減で子供および世帯数は減っているものの、進学や転出以外を要因とする加入者数の減少は見受けられません。しかし、PTAは実際に役員として参加しないことをしているか実態が

◆次世代の役員さんへ伝えたいことは？

「コロナ禍を経験して、組織も活動も一度なくなると再度立ち上げるのがとても大変だということがよく分かりました。このため、今までの先輩たちが積み重ねてきたものを壊さずに大切にしたいです。人と繋がり、出会い、自分自身を助けてくれます。また、繋がりや出会いによって次は助ける人になってほしいと思います。そんな方が増えるように、PTA活動の見える化を一緒に進めてほしいです。よろしく願います。」

(聞き手 宮崎 葵)

# 桃山三都

—京・大阪と肥前名護屋—

2024

12.6 金

2025

1.29 水

〈佐賀新聞創刊140周年記念〉  
開館時間 | 9:30～18:00  
休館日 | 毎週月曜(祝日の場合は翌火曜)  
12/29(日)～1/1(水・祝)

前売券 | 販売期間 11/5(火)～12/5(木)

佐賀新聞社、佐賀新聞販売店佐賀新聞文化センター、  
佐賀県立美術館、ゆめタウン佐賀、佐賀玉屋東別館、  
モラージュ佐賀、イオンモール佐賀大和、各プレイガイド  
(ローソンチケット、チケットぴあ、セブンチケット、イープラス)

小中学生  
観覧無料!



[公式HP]



[公式X]

## 豊

臣秀吉が天下統一を成し遂げた桃山時代。京都に聚楽第や伏見城、大阪に大坂城を築き都市を整備。そして文禄・慶長の役の出兵拠点として、肥前に名護屋城を築きます。名だたる武将が名護屋に集い、その壮大さは「城石垣は京都にも勝り」「天守なども聚楽第にも勝る」と言われるほどでした。

本展では京、大阪、そして肥前名護屋を加えた三都市を《桃山三都》と位置づけ、秀吉ゆかりの資料や桃山時代を生きた作家らの名品を展示。また名護屋城博物館の「黄金の茶室」を初めて館外に移設し公開します。さまざまな作品を通して《桃山三都》をご体感ください。

| 観覧料   |        |
|-------|--------|
| 前売一般  | 1,200円 |
| 当日一般  | 1,400円 |
| 高校生以下 | 無料     |

一人で二度見てもよし  
二人で見てもよし

お得な二度見券  
2,200円も販売!

11/5～12/5までの限定販売!

※当日券は展覧会場ほか各プレイガイドで販売

※障害者手帳または特定医療費(指定難病)受給者証所持者と介助者1名は無料

※佐賀新聞Begin会員、佐賀県立博物館・美術館メール会員、20名以上の団体は前売一般価格

※小学生以下は要保護者同伴

桃山の風、佐賀に吹く

/主催/ 佐賀新聞社、佐賀県立美術館

/特別協賛/ 木下グループ 草苑 冠婚葬祭セリエンス ホテルマリタール創世

問い合わせ

佐賀新聞プランニング ☎0952(28)2151

(平日9:30～17:30)



